いいづな遺跡発掘メモ7

市町村埋蔵文化財研修　その２

小さな土器片から情報を収集します。

２日目、松本市の南栗（みなみくり）遺跡のトレンチはプール状態…。現場での研修を楽しみにしていたのですが大雨に阻まれました。ま、こんな日もありますね。（飯綱町での実際の発掘現場も、朝から降水確率が７０％以上なら中止になります。）作業現場横のプレハブにて、長野県埋蔵文化財センター（以下、県埋文センター）の職員による南栗遺跡の調査概要と、現場での金属製品に対する応急保存処理の方法、出土遺物のおおよその年代を地層から予測する、などの講習を受けました。

まずは、土器の欠片が１袋にランダムに入ったものが配られていて、中身を種類ごとに分けました。ベテランになると、種類分けした土器の破片から、このタイプの土器が少ないから平安時代後半かな、とか、この産地の焼き物は何年ぐらいの時期から流通しているな、などとおおまかな時代や年代が推測できてしまうようです。南栗遺跡は、平安時代の掘立柱建物跡や中世の火葬施設跡などが確認されており、当時の集落の様相がうかがえます。順次調査範囲を広げていくとのことでしたので、今後の調査結果もとても興味深いものになりそうです。

図２　脆弱遺物救急箱「おたすけくん」（現場搬出時は蓋付き）

最後に、県埋文センターでの脆弱遺物の現場応急的保存処理の現状、課題についてご説明いただきました。県埋文センターでは脆弱遺物救急箱「おたすけくん」（中身はホームセンターで手に入るもの）を活用している、というお話です。特に金属製品は、出土して空気にふれると急速に劣化が始まるため、現場での早急な応急処置が必要です。そのためにおたすけくんを常に現場に置いておき、応急保存処理をその場で施せるようにしているとのことでした。遺物の保存処理を大学で専攻したという県埋文センター職員のMさん、とても真剣かつ丁寧に、そして何より楽しそうに（！）保存処理の現状と課題を説明していたのが印象的でした。発掘作業員３年目の私は上記の土器破片を見てもせいぜい土器かな？須恵器かな…？ぐらいの感じですが、大丈夫です。それらを学ぶための研修です。（と、必死に自分を励ます。）自分もいつかその域に達せられるのでしょうか。

いろいろと学べた２日間の研修でした。次は晴れて現場に入れますように！

いいづな遺跡発掘メモ７
（令和６年６月１日発行）
教育委員会生涯学習係　担当：福井
Tel：026-253-6560
Fax：026-253-6670
Mail：gakushu@town.iizuna.nagano.jp
HP：http://www.town.iizuna.nagano.jp/